

平成 30 年度 東京都内湾水生生物調査 11 月成魚調査速報

●実施状況

平成 30 年 11 月 16 日に成魚調査を実施した。調査当日は小潮で、干潮が 4 時 18 分、満潮が 12 時 07 分であった(東京都港湾局のデータ)。調査当日の透明度は 1.9~2.8m であり、全地点とも赤潮状態は確認されなかった。また、全地点で貧酸素状態は解消され、生物の回復傾向が確認された(千葉県水産総合研究センターの 11 月 5~6 日の貧酸素水塊速報においても、調査地点周辺では貧酸素水塊は確認されていない)。

	St.35		St.25		St.22		St.10	
作業時刻	10:20-11:02		11:22-12:18		12:45-13:25		13:34-14:05	
水深(m)	25.9		13.7		14.7		8.3	
天候	快晴		快晴		晴		晴	
気温(°C)	15.8		17.0		21.0		19.8	
風向/ 風速(m/sec)	N/2.5		ENE/1.5		W/2.2		W/2.2	
波浪(m)	0.4		0.2		0.3		0.2	
透明度(m)	2.8		2.0		1.9		1.9	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(°C)	18.4	19.5	17.7	19.3	18.6	18.5	18.7	18.7
塩分(-)	32.0	33.5	25.7	32.9	31.1	32.3	31.7	32.3
DO(mg/L)	8.0	5.4	9.7	5.1	12.6	7.2	10.9	7.3
DO飽和度(%)	103.8	72.5	118.4	67.6	162.0	93.2	141.1	94.5
pH(-)	8.4	8.3	8.3	8.2	8.5	8.3	8.5	8.4
水の臭気	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
備考								

観測層: 上層(0m)・下層(海底面上 1m)

●主な出現種等 (速報なので、種名等は未確定です。)

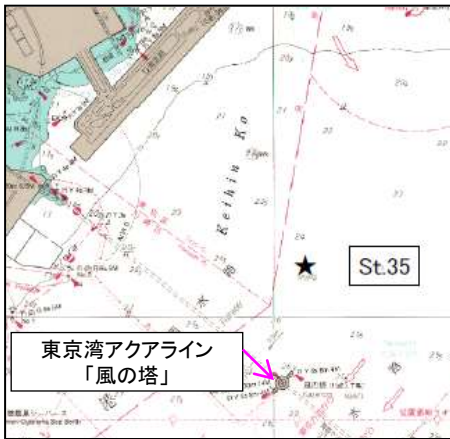
主な出現種等	St.35	St.25	St.22	St.10
魚類	テンジクダイ(+) ハタタテヌメリ(+) アカハゼ(r)	テンジクダイ(r) アカエイ(r) ツバクロエイ(r)	アカエイ(r)	コショウダイ(+) シロギス(r) マコガレイ(r)
魚類以外 (目立った種)	シャコ(c) マルバガニ(c) ガザミ(r)	ホンビノスガイ(+) シャコ(r) イッカクモガニ(r)	オウギゴカイ(G) シャコ(r) スナヒトデ(r)	ホンビノスガイ(c) アカガイ(+) サルボウ(+)
備考	上記の他、シログチ、タイラギ、フタホシイシガニ、スナヒトデ等が採取された。	上記の他、クロイシモチ、サメハダヘイケガニ、ゴイサギ等が採取された。	上記の他、ホンビノスガイ、ダンゴイカ科、イッカクモガニ等が採取された。	上記の他、ギマ、テンジクダイ、タイワンガザミ等が採取された。ホンビノスガイの死殻も多く採取された。

注)表中の()内の記号はだまかな個体数を表す。

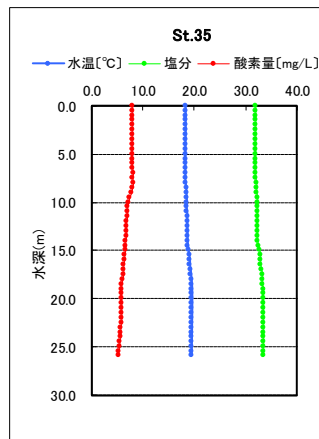
G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

調査地点：St.35

調査地点位置



水質状況



地点状況



南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。

貧酸素状態は確認されなかった。

採取試料



主な出現種

*写真のスケール 1 目盛: 1mm



ハゼの仲間の中では、比較的深所に生息する。東京湾全域から出現記録があるが、現在はおもに湾中央に分布する。湾奥では、1970年代までに減少したとされ、減少には、貧酸素水塊が影響していると考えられている。産卵期は春である。

夏季には湾奥に分布するが、秋から春には湾奥にも広く分布する。全長14cm程になる。産卵期は2~11月。内湾での底曳網調査で優占する魚種の一つ。東京湾では「メゴチ」と呼ばれている。

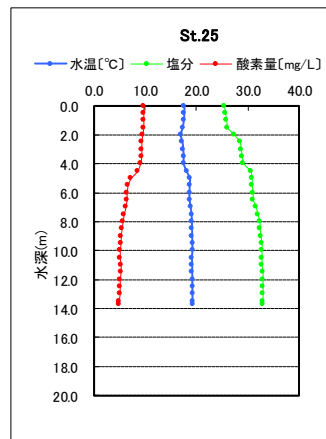
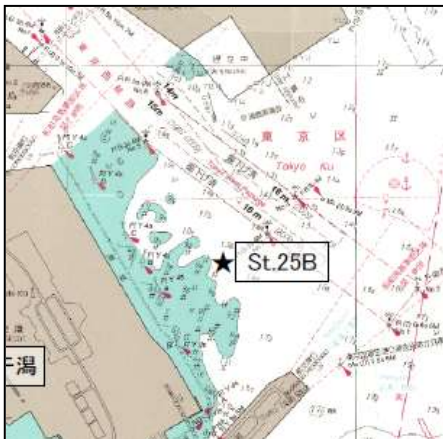
甲幅が10cm以上になる大型のカニ。内湾の浅海域に多く生息しており、成長に伴い深所へと移動する。横長の甲羅の左右に、横に長い棘があり、一番後の足の先はオール状になる。別名「ワタリガニ」と呼ばれている。

調査地点：St.25

調査地点位置

水質状況

地点状況



西側には東京国際空港が見える。

採取試料

貧酸素状態は確認されなかった。



主な出現種 *写真のスケール 1目盛:1mm



東京湾全域から出現記録がある。体は横に伸びた菱形で、体盤幅は 1.2m 程になる。砂泥底に生息する。アカエイに比べ小さく目立たないが、尾部には毒棘があり注意が必要。ツバクロは、ツバメ(燕)の意味である。



テンジクダイに近い種類である。東京湾外湾の館山湾ではよくみられるが、湾央から湾奥には少ない。内湾の転石の多い砂泥底に生息する。



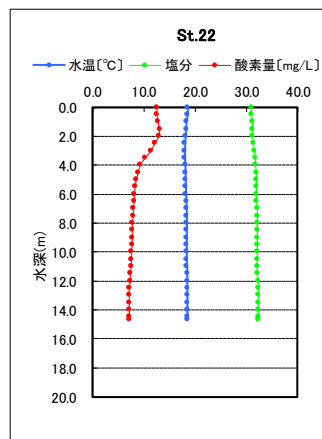
殻長 10cm を超える大型種。北米原産の外来種で、殻は本来白色だが、底泥中の硫化物の影響で黒っぽくなっている。東京湾の湾奥の泥底やカキ礁周辺で多く見られる。

調査地点：St.22

調査地点位置



水質状況



地点状況



北西側には東京ゲートブリッジが見える。

採取試料

貧酸素状態は確認されなかった。



主な出現種

*写真のスケール 1 目盛: 1mm



東京湾で最も普通にみられるエイの仲間である。胸鰭で海底をあおいで掘り起こし、隠れている甲殻類や多毛類などを食べる。尾部の毒棘は大変危険。



甲幅 2cm 程。甲らは先端の尖った三角形で、歩脚が細長い。外来種であり、有機汚染の進んだ都市圏の港湾や内湾の砂泥底に多い。



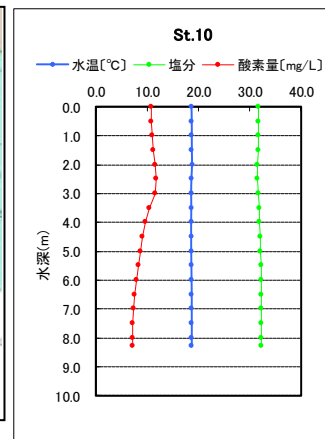
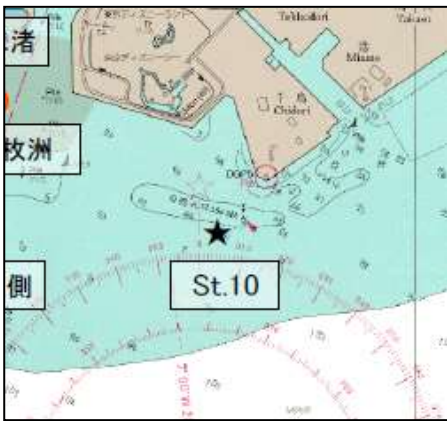
体長 15cm 程になる。東京湾では水深 15~30m に生息する。肉食性で、甲殻類、多毛類等を捕らえて食べる。横浜柴漁港では、禁漁期設定などの資源回復に取り組んでいる。

調査地点：St.10

調査地点位置

水質状況

地点状況



北側には、東京ディズニーリゾートが見える。

貧酸素状態は確認されなかった。

採取試料



主な出現種 *写真のスケール 1 目盛: 1mm



湾奥から外湾にかけての干潟域などの浅所で、夏から秋に体長 3～10cm 程の幼魚がみられる。成長に伴い体色が変化し、成魚は全体に黒色の斑紋が散らばったようになる。10 月の稚魚調査では、城南大橋で体長 5cm 程の個体が採取されている。



東京湾では、湾奥から外湾にかけての砂浜海岸などで多くみられる。稚魚は動物プランクトンやアミ類を食べて成長する。警戒心が強く、危険を感じると砂に潜る習性がある。10 月の稚魚調査では、お台場と城南大橋で体長 5cm 程の個体が採取されている。



東京湾全域から出現記録があり、内湾で特に多くみられる。産卵期は 11～3 月で、採取された個体は抱卵していた。東京湾での小型底曳網漁業の対象としてもっとも重要な魚種の一つ。